

- ・コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(柳澤監督映画上映会)
- ・太陽と緑の会からの助成
- ・スタッフ雑感
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

198号/2022 ▶ Since 1984

「福祉の難しさ」

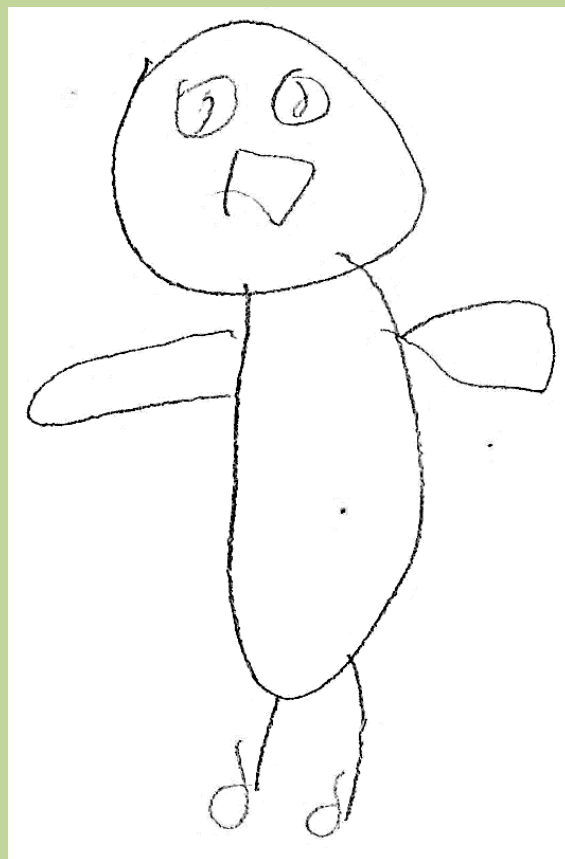
杉浦 良

「介護殺人なんて、とんでもないこと！・・・そう思っていたけれど・・・実際自分が直面すると、その可能性を否定できなくなる・・・」

そんな言葉を何人もの方から聞かせてもらいました。介護福祉に限らず障害者福祉の基本として「当事者に寄り添う」というセオリーがあります。専門家と言われる方、良心的であろうとされる方ほど、この言葉に囚われやすく、自分が現実に直面した時、自分の追い詰められた立ち居振る舞いに、困惑することもあるようです。

「仕事としてではなく、毎日介護しなければならない方は、当事者の言うことをしっかり熱心に聞いたらダメ・・・聞いた振りしてスルーするとか、言葉が心に刺さりそうな時は、他の用事を見つけてその場を離れることが大切・・・でないと生身のあなたが壊れてしまう・・・」

そんな原理原則とは真逆のことを話すことがあります。



「Nothing About Me, With Out Me」

自己決定の重要性を説いた素晴らしい言葉です。「あなたの人生だから、あなたが決める」とする、これも障害者福祉のテーゼです。

パターナリズム（強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益のためだとして、本人の意志は問わず、介入、干渉、支援すること）より、マターナリズム（相手の同意を得て、寄り添いつつ、進む道を決定していくこと）こそ、福祉の本質でしょう。

ただ、現実はなかなかそう上手く行きません。相手の同意を得て、寄り添いつつ、進む道を決定していくためには、実は膨大な時間がかかります。知的障碍のメンバーと長く関わってこられた方なら実感されるでしょうが、同意することの難しさも半端ではありません。ルビがふってあっても言葉自体の意味が分からない時など、説明自体が暗礁に乗り上げることもあります。

本当は分からなくても「分かった」と言ってしまう、実は嫌なのにそれでいいですと言ってしまうメンバーなども、よく見かけます。馬鹿にされたくない、後で怒られるから、といった気持ちがそうさせるのでしょうか。

そして限られた時間や人材で、行えば行うほど、生身の人間の限界を超えることになります。パターン化してパッパと振り分けて対応した方が、結果的には良かったというケースも出てくるでしょう。

そんな現実を見させてもらううちに、「良いか悪いかのどちらか」「白黒はっきりする」「イエスカノーカ」などといった見方が、実際とは随分ずれた捉え方だったと気づかされます。短期的には良くて、長期スパンではダメなこともあります。またその逆も然りです。そうしたことを思い連ねてみると、最後には「福祉はやっぱり難しい・・・」という結論になります。

「・・・学校では、まず簡単な問題をミスなしに早く解くことの重要性と必要性を学んできた・・・難しい問題は先送りし、時間が余った時に取り組む・・・最初に難しい問題に引っかかって時間を使ってしまうと・・・試験で生き残れない・・・」

確か、西村元経済再生担当大臣が語った、そんな言葉に「うまいこと言うなあ～」と、妙に感心しました。

学校の偏差値が高く優秀と言われてきた人たちは、早くからその原理原則を体得し、実行することで生き延びてきた・・・もしそうだとすれば・・・難しい福祉にはなかなか向かないのでは・・・直ぐに結論が出ない問題に・・・愚直に諦めることなく対応し・・・生身の体や心が壊れてしまわないように距離を取りつつ時を待つ・・・その時が来たら迅速にしっかり対応する・・・そんな人間が育つには・・・いったいどんな学びが必要なのか・・・そしてそんな人達は、日本のどこにいるのだろうか・・・

方位の見えない新型コロナ禍、収束の兆しが無いロシアのウクライナ侵襲。潔くなく、諦めよくなく、牛のヨダレのごとくこだわりつつ、つらつら夢の日常が続きます。

お知らせ

柳澤監督映画上映会

8月21日(日)、ドキュメンタリー映画「ぼくのなかの夜と朝」(柳澤壽男監督・1971年100分カラー)上映会を徳島県藍住町総合文化ホールにて開催、午前午後の2回上映しました。

舞台は仙台にある国立西多賀病院。そこで暮らす130人の筋ジストロフィー症児のドキュメンタリー作品で、太陽と緑の会の創立者でもある、徳島市出身の整形外科医近藤文雄が登場します。

徳島県にもこの夏、新型コロナウイルス第7波が到来しましたが、そのような中、2回合わせて80名(関係者も含めての延人数)の皆様がお越し下さいました。

「近藤文雄と筋ジストと太陽と緑の会と徳島・・・それが繋がったわ!」との有難い言葉も頂きました。有難う御座いました。

来年は第4回目。「甘えることは許されない」を上映する予定です。

食料品頂きました

浄土真宗のお寺(尊光寺等)の皆さんからの食料品・調味料等をフードロス活動で持ち込んで下さる竹條さんから、13回目の持ち込みとお菓子を頂きました。

「これは竹條さんから頂いたお菓子です。もしお会いしたら、ちゃんお礼を言つてよ!」

そう言いながら朝ミーティングで皆に配ります。食料品・調味料等は、リサイクル作業所・月の宮作業所や一人暮らしのメンバー達にも配りたいと思います。いつも有難うございます。

お米を届けました

「余った玄米です。そちらで活用して下さい。」

そんな有難い言葉から集まった玄米150キロを精米し、頂いた梅干しも一緒に、NPO法人クレールが行っている子ども食堂に届けました。

「新型コロナ禍での貧困家庭支援としては、お米が一番喜ばれます。1人3合のお米を袋に詰めて配送支援もしています。」

原田理事長の言葉です。配送支援は食料を配るだけでなく、お母さんや子供たちとの会話も必要とのこと。やはり人間力が試されるのでしょうか。子供支援事業としてお風呂や子供学習室や食堂など、新規事業展開もスタートされました。

「親ガチャ」という言葉が流行る今日この頃、格差が拡がり自助努力が優先される日本。生まれ落ちた家庭の状況で将来が決まるとすれば、日本に生まれたくないと思う子供がいても不思議はないでしょう。

それは「障碍」も同じでしょう。そして両方の困難さを抱えたときの、さらに厳しい現実も随分見させてもらいました。絶望的にもなりますが、それでもせつせと生きる姿から、こちらも多くを学びます。

吉野川市のS様から75キロの玄米を頂きました。ストック分を含めて計135キロを精米し、この度は「フードバンクとくしま」に提供することにしました。

太陽と緑の会からの助成(第57回)

徳島市資源ごみ回収事業に係る奨励金(古紙、鉄屑、空き缶1キロに対し3円、廃食油1キロに対して20円)令和3年度前期分(令和3年度後期配分)10万3600円が当会の太陽と緑の会福祉事業団に支給されました。

これを各分野で非営利活動に取り組んでおられる以下の団体の皆様に配分させて頂くことに致しました。

①障害者福祉活動への助成

NPO法人聴覚・ろう重複障害者生活支援センター(地域活動支援センターの運営) 3000円

NPO法人ほっとハウス(地域活動支援センターの運営)(作業所建物移転支援)3万円

②社会福祉活動への助成

徳島いのちの希望(社会福祉法人徳島県自殺予防協会)(電話による相談活動)1万円

③国際協力活動への助成

パシヤワール会(アフガニスタン等での医療事業、水源確保事業、農業計画)1万円

モヨチルドレンセンターを支える会(ケニアにおけるストリート・チルドレンの支援活動) 1万4094円

NPO法人TICO(徳島で国際協力を考える会)(ウクライナ支援活動に対して)1万円
公益財団法人 徳島県国際交流協会 1万円

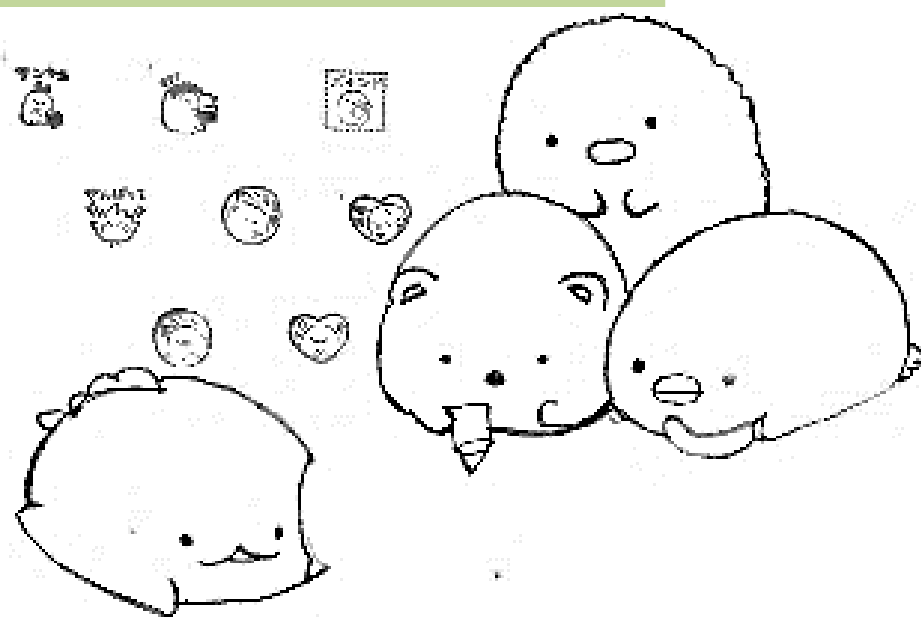
④環境保全活動への助成

NPO法人 新町川を守る会(花ロードプロジェクト)5000円

⑤芸術文化活動への助成

一般社団法人 金長と狸文化伝承の会(金長神社再建支援) 1万円
支援金振込手数料 1506円

太陽と緑の会福祉事業団の助成活動は平成5年度よりスタートしました。各分野で非営利活動に取り組んでいる個人・団体の皆様を対象に、年2回、29年間で累計1608万8976円の助成を行ってきました。(敬称略)



スタッフ雑感

回収日誌

1月某日

年明け最初の回収、暖冬で通年より気温が高いといえども、寒いことには変わりなし。

一緒に回収に出たメンバーさんもあまり乗り気ではないらしい。冬休み明けで中々本調子が出ないようだ。軽めの回収内容にはしていたが、しんどそう。暫くは軽めに、とは思うものの、年末から待ってもらっているご依頼も多く、スケジュール的にはタイトにならざるを得ず、ジレンマを感じる。

2月某日

年始のドタバタもやり過ごし、メンバーさんも落ち着きを取り戻したこの頃、コロナ禍による外出自粛の影響か、だいぶ大掛かりな片づけをされるご家庭が増えている。ありがたいご依頼が多いが、こちらのキャパを超えてしまい、ご希望に沿えず忸怩たる思い。

3月初旬

やっと春らしい日差しが差し出したなと思っていたら、予想外のドカ雪が。昨日から変に冷え込むとは感じていたが、まさかこの冬一番の大雪になるとは。天気予報では夜には降りやむそうだが、翌朝の路面凍結が怖い。

朝になってみたら、多少雪は残っているものの何とか運転に差支えはなさそうだ。出勤してみると、メンバーさんがもう来ていた。正直、通勤しやすい道路状

況ではなかったなので、休む人が多いかなと考えていたので、驚かされた。午前中は駐車場に残った雪の片づけ、午後からいつもの回収。

3月某日

卒業シーズン到来、それに伴って引っ越しや部屋の整理で出てくる不用品回収のご依頼も増えてきた。中には今回が初めてのご依頼の方も。予想よりも色々引き取ってくれたと喜んでもらえた。近年は家具、特に大型家具の類のお引き取りをお断りせざるを得ず、がっかりされることが多かったので、回収先の方に喜んでもらえるとホッとする。

5月某日

今年は例年より暑くなるのが早い気がする。まだ梅雨入りもしてないのに、気温は真夏日並みに。メンバーさんも皆しんどそうだ。そんな中、去年の冬から当会に通うようになったQさんは、回収で街を色々周れるのが面白らしく、どんな暑い日でも声を掛けたら喜んで一緒に回収に行ってくれる。最初は回収作業に馴れず色々戸惑っていたが、最近はどんどん積極的に動いてくれて、助かってる。これから夏に向けて、どんどん暑さは厳しさを増していくばかりで先が思いやられるが、それでも少しずつ成長していくメンバーさんたちに助けてもらいながら、この長い夏を乗り切れたらと願う。(専任職員:松村)



イラスト 久米さん

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2022年7月1日～2022年9月17日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下さった皆様

佐藤、尾上、竹原、阿部、匿名、匿名、服部(郵便振替口座) 匿名、清田、松尾、内原

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○石川、宮田、広島、アシスト、梶原、鎌田、西條、中井、原田、栗林、安倍、藤本、岡本、徳島県東部県土整備局、大隅、後藤、林、加納、森本、高島、キシ、谷本、上田、加藤、新居、横田、山西、森下、月岡、シマムラ、友成、松田、津田、井川、大島、松本、吉岡、稼勢、田中、杉本、岸本、岡、吉野、三原、小倉、岩田、大塚、森井、吉田、鈴木、川西、助岡、笠井、植木、長田、榊、乾、川野、鈴江、白木、岡田、藤井、藤川、中野、西田、大西、東條、森、永栄、篠原、岩崎、堀川、濱田、山本、宮田、南、野口、中村、長谷川、長江、佐和、尾崎、平岡、沖津、西、白川、河野、谷本、竹内、辻本、中平、佐藤、竹岡、檜原、ヨシタニ、岸本、郡、藤岡、乾、野田、梯、増木、山内、石原、森本、ハッサン、長谷部、西田、中山、亀井、藤田、久次米、山下、清水、中石、木内、山内、長尾、原、影治、石川、千石、山本、丸鬼、佐々木、米原、藤永、高鍋、細井、名倉、徳島市役所市民協働課、大林、西岡、梶村、秋山、堺、清水、長崎、田和、佐藤、平岡、小路、瀬戸、寒川、中川、喜田、伊澤、大島、川内、野中、石堂、内田、津川、羽里、黒田、三宅、木田、小島、立石、斉藤、玉谷、三木、尾崎、夏木、照本、名倉、原淵、原田、吉田、小山、長谷川、横山、福永、大野、篠原、山口、近藤、津田、北野、坂東、筒井、女性グループすいーぷ、伊澤、井川、伊沢、喜多、大村、宮城、足立、樋口、本田、秋田、福井、本城、大西、西野、角、福田、谷口、後藤、金本、池上、矢川、河野、筒井、桑田、河村、井内、木下、工藤、ラブ、武知、森西、あべ、松谷、片山、田岡、窪北、四宮、イシムラ、藤永、中山、福田、伊藤、福山、中島、銅突、澤田、大松、齋木、池北、坂東、西、近藤、徳永、田所、松田、内海、フジカワ、中内、桐川、米澤、橋本、大笠、浜崎、(株)フジワーク、山田、美馬、河西、中西、野中、松内○阿波市○氷上○吉野川市○近藤、大塚、竹中、井本、藤田、柏木、後藤田、末吉、刈谷、山本、石川、佐藤、正木、藤川、岡本、中西、奥田、櫻井、鈴木、田村○上板町○松岡、北林、フロストロバート、小浜、鈴木、河野、笠井、広瀬、中野○鳴門市○吉田、渡辺、大島、山本、亀利、後藤、三井、安喜、山田、出口、福山、小田、西村、米田、辻、坂本、東條、池内、尾崎、和田○阿南市○上野、湯浅、田宮、照原、山本、照原、ジヨウハラ、小谷、渡部、松崎、生田○東みよし市○田中、大和○藍住町○上田、川田、木内、堀内、荒井、楠木、井上、稲川、蔭山、岡本、高橋、岩脇、南、楨納、松田、中野、杉村、山本、新谷○石井町○武市、水草、岡本、河口、市村、佐藤、武田、住友、吉本、三河、ジエイコフセレ、河田、久次米、中村○小松島市○高松、川淵、廣島、三宅、伊川、寒川、中山、徳政、藤川、浜口、中井、三瀬○板野町○賀満田、丸益、増田○京都府○木村、井上○北島町○清田、栗原、工藤、徳永、小西○つるぎ町○山下○神山町○河野、今津、手島、藤田、藤本○美馬市○藤森○松茂町○原田○牟岐町○坂本○三好市○藍原○海陽町○神沢○福岡県○永峰○東京都○三木○岡山県○仲川○愛媛県○浜田○埼玉県○本田○福島県○小野○香川県○松村○大阪府○吉岡

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○森、渡辺、出口、土肥、生田、秋田、四国大学 ボランティア活動支援室、益田、村山、市原、久米、穴吹ハウジング西上、石原、坂上、新田、石川、福永、那賀川、上田、松田、中村、泉、木谷、岡、日高、大北、富永、松浦、三木、岡田、佐野、幸田、宮本、池田、今津、川人、中津、木下、市川、原、宇治製薬、小路、大榎内科、吉田、鶴木、中山、小林、大野、クレール原田、川村、青木、吉見、中河原、猪兒、湯村、今井、乾、清水、中野、中田、矢部、谷、森下、明石、笠井、多田、出口、三宅、宮越、篠野、小川、伊東、小椋、田村、福井、沼田、小原、中川、柿本、富永、青木、山田、細國、美馬、岩佐、高橋、久次米、小野木、水田、平土、須見、森岡、勝野、田中、仲里、横山、野口、堀江、大高、安芸、三好、増田、いずみ、岡本、松下、岩井、山

田、福井、濱田、林、豊田、荒木、たけ原、河野、幸田、鈴江、呉羽、東條、長野、前田、喜多村、尾上、上村、佐藤、近藤、山澤、天羽、鎌田、斎藤、間嶋、吉岡、剣山ホテル、月岡、荒木、藤永、林田、広田、住田、坂東、渡部、豊田、橋本、中野、柴谷、久保、大久保、米本、工藤、棚野、新日本理化(株)事務課 武市、笠井、山下、小野、宮前、福田、高田、平田、滝本、桶川、八仙閣 (長尾)、西木、湯浅、佐藤、布川、堀江、久米川歯科○鳴門市○辻、大和、久龍、浅野、堤、松岡、前田、鳴瀬、長尾、瀬戸○石井町○佐藤、中村、三木、山中、松家、武知、小松、山崎、古高、阿部○小松島市○宮本、西尾、射場、中村、中野、坂東、林、木下○上板町○橋本○松茂町○丹波、箱井○藍住町○奥野、岡田、黒川、穴山、加藤、穴吹ハウジング(西上)○板野町○中島、山本○吉野川市○徳野

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられます。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

また、当会が火事に見舞われた 2005 年に 1 年間ボランティアとして参加して下さった O さん(福島県)から今年も立派な桃が届きました。今は地域協力隊という言葉をよく聞きますが、解散した J Y V A (日本青年奉仕協会) の 1 年間ボランティア 365 は、先駆的で意義深いものでした。そんな O さんが福島に戻り、東日本大震災も乗り越え、今でもこうしてつながって下さっていることが、本当に有難いことと思います。

いつも「フードロスをなくすために」とまだ食べられる食材を持って来て下さる竹條様(浄土真宗のお寺(尊光寺等)の皆様を代表して)をはじめ、玄米、お野菜、食材、お菓子、飲み物等を差し入れて下さった皆様も本当に有難うございました。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」と記入して頂ければ幸いです。

NPO法人太陽と緑の会 定休日

10 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

※年末年始のお休みは、決まり次第、太陽と緑の会ホームページにてお知らせします。

編集後記～安心安全

徳島のような地方都市で生活すると、通勤、買物、通院、保育園や学校への送迎など、あらゆる場面でクルマが必要となってきます。電車やバスなど公共交通が整備されている大都市では、なかなかイメージしにくいかもしれませんが…。

それは交通事故のリスクと背中合わせの暮らしとも言えます。

赤信号で止まっている車にブレーキも踏まずに追突したり、一時停止が必要な交差点に減速しないで進入したり、駐車場で後方を確認せずにいきなりバックしたり、アクセルとブレーキを踏み間違えたり…。

ありえないミスをしてしまうのが人間です。1000回やって大丈夫だったから、1001回目も大丈夫、という保証はありません。

個人の努力やテクノロジー、システムの活用によって、事故を少なくすることは可能だと思いますが、完全にゼロにすることは難しいでしょう。完璧な人も、完璧な機械も存在しません。

クルマのない社会に逆戻りすれば、交通事故の件数は劇的に減ります。しかし、今さら明治時代のような暮らしに戻るはずもなく、(地方で暮らす)多くの人にとっては「交通事故のリスクをある程度は受け入れてでも、クルマのある生活を送る」というのが現実的な選択となるように思います。

世の中、ふたつ良いことはないでしょう。100パーセントの安心安全が存在しない世界の中で、どこまでリスクを受け入れていったらよいのか。3年近く続くコロナ禍で幾度となく考えさせられたことでした。

「やり過ぎるくらいでちょうどよい」という感染防止対策が行われる一方で、日常生活の中で人と人とのつながりが切れてしまうことによる負の影響も報告されています。病院や施設に入院・入所されている方は、家族との面会すら困難となりました。

「やりすぎ」は本当に良いことなのでしょうか。なかなかの難問です。(文責:小山)。

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1
TEL・FAX 088-642-1054
代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎
ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田
宛名シール添付担当メンバー 堀
製本・発送作業担当メンバー 岡田

年会費: 正会員 1万円 (総会議決権)

準会員 1,000円 (機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名: 特定非営利活動法人太陽と緑の会